

特集

わたしたちの2024年問題

- ♣ 扉 ナーム・ンガーグ 小畑美史 1
- ♥ まなぶということ 飯沼秀雄 2
- ♠ 詩 とり胸肉のカツ 太田章子 4
- ◆ 「わが友、第五福竜丸」 佐藤千紘 8



ガザ戦争の拡大のシナリオ 高橋和夫 10

ライドシェア 利用者にも運転者にもリスク 高橋 学 15

日本の金融政策はどう変わる 北村 巖 18

いまもつづく、改革政治がつくりだす危機 北川寿一 21

国による辺野古古代執行を許さない 木村辰彦 24

日本のうしろ 世界のうしろ

年越しの裏金問題、震災と航空機事故 横田昌三 27

原発3倍増という妄想からの転換を 飯田哲也

苦境にたつ中国経済 2024年は? 瀬戸 宏

職場の法律相談 短時間・有期雇用労働者の均等待遇 鬼東忠則 39

国家と教育 ⑪ 『日の丸』『君が代』指導の強化 小池洋平 56

誌上学習会『イギリスにおける労働者階級の状態』(終) 労働者運動② 60

◆ キャラバンサライ	42	◆ たちみ席	54
◆ スポーツ時評	44	◆ 働く現場から	55
◆ 世界はいま	46	◆ 情報BOX	64
◆ 経済を知ろう!	48	◆ 北から南から	65
◆ 数字を疑え	50	◆ センターと	68
◆ 中国観看	52	◆ みなさんをつなぐ	

カットII 野崎安希子

まなぶということ

労働者が集まれば、学習会と呼びかけて学習会をつくる

飯沼 秀雄

私は戦争をさせない1000人委員会松戸で代表を務めています。安保法制の強行採決に抗議し、松戸でも、労組会議と当時の社民党、無所属議員、弁護士、市民団体が結成しました。

活動方針は「毎月駅頭宣伝行動」です。毎月1時間駅頭で演説するには「情勢の学習」が大切です。『まなぶ』は時々課題を提起していますので最適です。しかし、なかなか一人では読み切れません。質問と議論が内容の理解を深めるので、学習会が必要です。

若者を学習会に組織するのは最大の課題ですが、若者がいないからと学習会をつくらないでは、学習内容を深められません。たとえOBや退職者であっても継続していなければ若者を受け入れる「場」がなくなり、まなぶ場が狭まります。現在はI市、M市の自治労、教組、JP労組や市民団体OBの比較的高齢な参加者

で学習会を25年ほど継続しています。地域では、M地域労組の会議にあわせて事前学習を20年ほどつづけています。この学習会には未組織の仲間や立憲民主党議員、社民党議員も参加し、意見交換をしています。

自治労関係の学習会は30年ほどつづいていますが、参加者が「退職者会」に移っていても、2月に1回学習と意見交換をしています。

M市職では、女性青年部幹事会前に、まなぶ学習会を月1回開催しています。若い組合員は時間外労働や子育て等で忙しく、参加が2人だけということもありますが、『まなぶ』の読み合わせと職場報告と組合全体の課題を交流します。労働者が集まれば学習会を提起して学習会づくりつくりましょう。読者の皆さんもぜひ実践してみませんか。

戦争をさせない1000人委員会が駅頭宣伝に参加していただいた市議会議員の方が、「平和問題や原発は難しい」と言っていましたので、さっそく『まなぶ』を勧めたら、購読してもらえることになりました。もちろん学習会に誘います。

(千葉県労働大学連絡会代表)